

令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【植水小学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	算数の自校テストの目標値をやや下回ってしまい、未だ基礎基本の定着に課題がある。来年度は、より計画的に国語・算数タイムの時間を活用し、過去の学年での学習内容の復習や、自分で苦手な問題に取り組めるよう業前の時間帯の国語・算数タイムを活用し、さらなる基礎・基本の定着を図っていく。
思考・判断・表現	さいたま市学習状況調査では、資料の読み取りや、自分の考えをもつところに課題が見られたので、引き続き、タブレット端末を効果的に活用し、自分の意見を伝え、学級で共有できるような方法を検討し、活用していく。
主体的に学習に取り組む態度	引き続き、家庭学習の計画を立てられるよう、長期休みの際のタブレットを使用した家庭学習では、アプリの機能をうまく活用し、計画的に児童が学習に取り組めるように支援する。また、保護者と協力して取り組めるように前年度は取り組んでいた「家庭学習パワーアップ週間」を設けて、家庭との連携を図るようにする。

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	粘り強く取り組み、自分のできる問題を正確に解くことのできる、知識・技能を身に付けることができる。(2学期の漢字まとめテスト80%、算数のまとめテスト85%を目指す。)	⇒ 算数では中学年以上で少人数指導を行い、さらに高学年では、算数専科を配置し、担任と二人体制で授業を実施するなどして、基礎・基本の定着を図る。また、業前の国語・算数タイムの有効的な活用方法について検討し、実施していく。
思考・判断・表現	自分の考えをもち、それを相手に伝えようとすることができる。	⇒ 自分の意見を交流し、深めていくためのタブレット端末の有効的な活用方法の検討。(校内研修等で「オクリンク」「ムーブノート」の有効活用方法の共有。)
主体的に学習に取り組む態度	自分で目標や計画を立て、学習を進めることができる。(さいたま市学習状況調査の関連質問項目の肯定的な回答の割合を前年度より高める。)	⇒ 長期休みの際など、児童自身で目標や計画を立てられるよう、ドリルパークやスタディサブリ等を有効活用し、計画的な学習計画立案の支援を行う。

<小6・中3>(4月～5月)

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	6年生の全国学習状況調査の結果を受け、全校で「国語・算数タイム」では基礎・基本の定着に取り組む時間と設定したことで、基礎・基本の定着の時間として目的をもって取り組むことができた。6年生・4年生は一定の成果が現れたのではないかと考えられる。国語の自校テストの平均点は82点であり、目標値を上回ったが算数の平均点も82点であり、目標値の85点を下回った。	B
思考・判断・表現	タブレット端末を活用し、「学びのポイントじ・し・ゃ・く」を意識した学習活動を展開し、オクリンクやムーブノート、パワーポイント等を利用することで、学級全体の意見を共有しやすくする方法を検討できた。	B
主体的に学習に取り組む態度	全国学力・学習状況調査では、「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」の項目で大幅に前年度を上回っていたが、さいたま市学習状況調査の同等項目では、5年生が市平均と同じで前年比よりやや上昇したのに対して、6年生は減少してしまった。	B

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	算数では、図形に対する項目で、全国平均よりも正答率が高い。反面、末尾に「0」がつくかけ算や、加法と乗法の混合した計算では正答率が低い。国語では、漢字や言語に関する問題での正答率は全国平均とほぼ同一であった。国語・算数タイムの時間を活用し、ドリルパークなどで四則計算に取り組ませる時間を設け、さらなる定着を図りたい。
思考・判断・表現	算数では、正三角形の性質を問う問題では正答率が高いが、それを活用して理由や考えを記述する問題で正答率が低い。また、国語では、目的に応じて必要な情報を見付けたり、話し手の伝えたいことや、考えを比較しながら自分の意見をまとめる項目で正答率が低い。自分の考えをもつ活動がとても大切であり、ICT機器を効果的に活用し、協働的な学びで深い学びの実現を図りたい。
主体的に学習に取り組む態度	質問紙での「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」の割合は、R4年度の肯定的な回答65%に対して、R5年度は肯定的な回答が70%を超えた。「課題の解決に向けて自分から考えて取り組んでいたか」という質問では、R4年度は肯定的な回答が82%だったのに対して、R5年度は89%とこちらも上回った。引き続き主体的な学びを支援していく。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
②詳細分析(学年・教科担当)

④ さいたま市学習状況調査結果・分析 ※令和5年度のさいたま市学習状況調査結果は参考値扱いとなります。			
小3	国語では、特に漢字の習得率に課題が見られ、多くの問題で正答率が低くなった。また、毛筆の運筆に関する理解が低く、正答率が低くなった。算数では、図形の定義について、市の平均正答率とほぼ同じ問題が多かった。反面、四則計算の定着に課題が見られ、特に小数の計算についての正答率が低くなっていた。	小4	国語では文章の読み取りに関して、市の正答率より大きく上回っていた。他学年で正答率が低めの説明する問題についても市平均とほぼ同等であった。反面3年生と同じく、毛筆の運筆理解に課題がある。算数では、四則計算の項目でやや市平均を下回った。グラフの読み取りや数直線の数量関係理解に課題がある。
小5	算数の四則計算については、ほぼ市の平均と同じ正答率であったが、公約数の問題に課題があり、分数の学習の定着率に影響が出ている。国語の漢字については市平均より正答率が低い問題が多かった。社会や理科では3年生に学習した内容について特に正答率が低く、過去に学習した内容の定着に課題がある。	小6	国語や算数の漢字や四則計算などの基礎的な問題については、ほとんどの問題で市の平均点を上回っていた。反面、国語では文章全体の効果を考えること、算数では、縮尺を利用して実際の長さを求める問題に課題が見られた。社会や理科も同じような傾向で、知識を問われる問題については正答率が高いが、資料から読み取るなどの問題では正答率が低くなる傾向にある。

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)			
	目標		策
知識・技能	変更なし	⇒	変更なし
思考・判断・表現	変更なし	⇒	変更なし
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒	変更なし